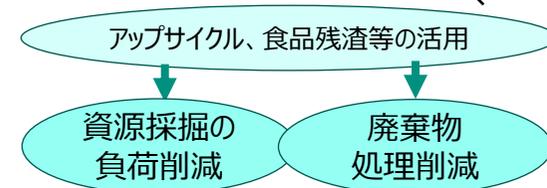


No.13 株式会社艶金 (1/2)



繊維素材や食品加工残渣などの未利用資源を活用し、衣料品のアップサイクルなどを実現



■ 基本情報

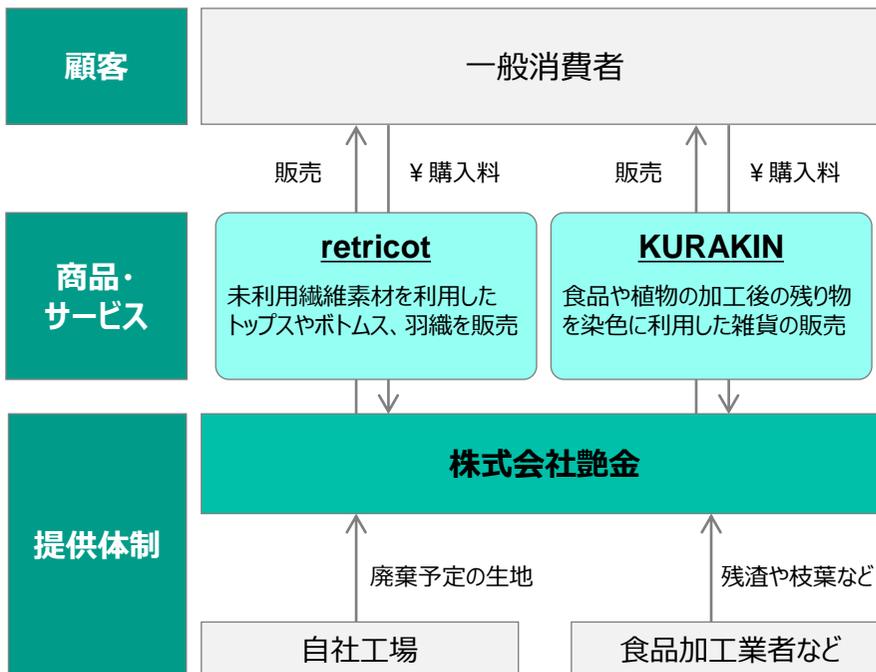
企業名	株式会社艶金
本社所在地	岐阜県大垣市
設立年	1956年
従業員数	132名

■ 背景・課題

地域課題 ・ 企業課題	繊維素材の大量廃棄 ✓ 衣料品の加工製造の現場では、繊維素材が大量に廃棄されていた。
地域資源	天然染料の素材 ✓ 果汁を絞った後のブルーベリーや草餅を作った後のよもぎの煮汁などの食品残渣や枝葉等の植物は染色に活用できるポテンシャルを持っていた。
地域への貢献	環境意識の向上 ✓ 未利用繊維素材や「のこり染」を活用した商品の販売により消費者の環境意識を向上させている。 ✓ また、地域の学校やイベントでの啓蒙活動を積極的に実施している。

■ 事業概要

- 株式会社艶金（以下、艶金）は、主にファッション衣料の染色整理加工を実施している。近年は、サステナブルな取組として、未利用繊維素材のアップサイクルや食品等を利用して染色する「のこり染」を事業展開している。
- アップサイクルブランドである「reticot（リトリコ）」では、染色工場内の余った白生地や染色後に廃棄されてしまう生地を再利用し、自社工場やOEMで衣料品を製造・販売している。リラックスできつつ、オシャレも楽しめることをモットーに製品開発に取り組んでいる。
- また、のこり染を行う「KURAKIN」では、食べ物や植物を加工したあとに出る残りもの（残渣や枝葉など）を利用して染色を行い、自社でトートバッグやエコラップ、タオルなどの雑貨を製造・販売している。自然界から抽出した色であるため、落ち着いたようなやわらかい色合いが特徴となっている。
- その他に、バイオマスボイラーへの燃料転換や、再生電力の購入、省エネルギー染色機の導入など、様々な環境への取組を実施している。



出所) 株式会社艶金の資料・インタビューより 0

No.13 株式会社艶金 (2/2)

■ 事業立上・推進期における取り組み内容

立上期	推進期
<ul style="list-style-type: none">2000年代後半に、県内研究機関から食品メーカーで発生するピーナッツの渋皮の利用法について共同研究の依頼があった。艶金代表の墨氏は、煮沸することによりピーナッツの渋皮から綺麗な色が出ることを県職員経由で教えてもらったことをきっかけに、「のこり染」の事業に興味を抱いた。2010年頃には染色技術や体制も安定化したものの、当時天然色素により染色された生地や色に興味を示す買い手は現れなかったため、自ら雑貨を製作し、展示会などに出展することで顧客を獲得した。また、衣服や生地の大量生産・大量廃棄について長年問題意識を抱いていた代表の墨氏が2018年に衣類の大量廃棄を扱ったテレビ番組を視聴したことをきっかけに、生地染色段階でも多くの廃棄が存在していることを発信するために、残り生地による衣料製造・販売を開始した。	<ul style="list-style-type: none">「reticot」や「KURAKIN」の情報発信は、現場から抜擢された20代の若手社員3名が自ら実施している。具体的には、webサイトのデザインや、webサイトに掲載する画像の撮影、SNSでの発信、クラウドファンディングの活用などの情報発信活動を積極的に行っている。情報発信により、事業の認知度が高まり、KURAKIN売上アップと共に、遠方を含め様々な企業から食品残渣などが色の材料として活用できないかと声がかかるようになった。その結果として、「のこり染」OEM商品の受注に成功している。社員に対する啓発にも力を入れており、メディアや企業の取材を積極的に受けることで、社員に自社活動の価値を再認識してもらう工夫をしているほか、施設内に「TSUYAKIN FARM」という農園を設置し、社員食堂から出る生ごみを活用して、段ボールコンポストで生成した肥料をもとに野菜を栽培することで、循環型サイクルを社内実施する取組を行っている。

■ 取り組みにおける工夫

ポイント 既存事業のアセットを活かした新規事業開発

「reticot」では、主幹事業である染色加工の過程で発生する残り生地を活用している。また、「KURAKIN」では既存の染色技術・機材を活かしながら「のこり染」を実施している。既存事業のアセットを活用することで、事業の持続性が担保できている。

ポイント 若手社員による情報発信

現場から若手社員を引き抜き、情報発信のチームに抜擢した。このことで、webサイトやSNSを通じた発信力が向上し、顧客やパートナー企業の獲得に繋がっている。

ポイント ストーリー共感によりコストを削減

技術力や価格だけではなく、ストーリーに共感して製品を購入してくれる企業や消費者が存在している。そのことにより、デザイナーが指定する色ではなく、艶金を持つ素材から出る色に基づいた製品デザインに繋がっており、材料費や開発費を抑えられる。

■ 目指す将来像

“環境配慮型染色整理工場”というビジネスモデルの確立

- 大量生産・大量消費が当たり前の業界の中で、サステナブルなあり方を体現する
- また、そのために事業に共感・協力してくれる企業・消費者を増やしていく。

